



→ 体育館北のザクロの花 二学期の変化が楽しみです。

## 停電の学び舎抜ける風涼し

七月二日(火)の朝、鼎橋南の道路斜面の大木が倒れた。前日の雨の影響か幹が裂け、電線にのしかかっている。枝先は車道を越えてガードレールに届くほどであった。

学校の時計は七時十三分を指して止まっていた。中部電力と市教委に停電の連絡をして鼎橋に向かう。すでに地域の方が歩道の枝を切り払い、駐在さんが交通整理にあたってくださっていた。開元、米河内、安戸地区も停電したそうだ。総代さんや地域の方ができることを探して何人も足を運んでくれた。安戸の通学班が登校してきた。子供たちはみまもり隊員さんに守られ、通行止めでUターンする車を避け、安全に校門をくぐる事ができた。この日が曇であったことは幸いであった。臨時の全校朝会を開き、熱中症対策、落ち着いた生活、復旧作業に携わる方への感謝の気持ちの三点について教頭先生から指導を受け、子供たちは不便の中で助け合う一日を開始した。



【鼎橋南の倒木】

校内を巡視後、薄暗い校長室の自席に着くと、周りが静まり返っていることに気付く。隣室のペンが転がる音まで聞こえそうなほどの静けさ。いつもは電化製品の音が常に響いていたことを改めて知る。背にした窓からは涼やかな風。微風でも冷気を感じる。雑音がない分、五感が研ぎ澄まされるようだ。手にした文書の内容まで鮮明に頭に入ってくるように感じられた。教室では、子供たちも先生や友達の話が聞き取りやすかっただろうか。

九時三十分を過ぎた頃、照明がついた。予定より早い復旧である。そこへ交通整理で汗びっしょりになった駐在さんが、倒木の撤去完了を知らせて来てくださった。

現代社会は便利である。電力の恩恵を受け、瞬時に快適な環境を整え、効率よく思いを遂げることも可能だ。しかし、それだけでは味気ない。今回の停電で分かったように、事故現場に足を運んで汗を流したり、見えない相手を思って行動したりする人の心遣いがあり、それに気付き、感謝できる感性をもてこそ、快適で幸せな社会生活ができる。この日の朝は、食中毒を心配した職員が、保冷剤と氷を集めて配膳室の牛乳を冷やしていた。市教委からは給食センターに連絡してくださり、届いていた牛乳を冷蔵車で再回収し、停電復旧後に改めて配達していた。いた。倒木、停電、交通整理、熱中症や食中毒の対応と、実に多くの人が心を配り、率先して動き、快適な生活を支えてくださった。

夏休み。子供たちはどんな四十日を過ごすだろうか。当たり前にあるものごとを見つめ直し、それを支える人の心遣いに気付く体験ができるとうい。それは涼風のように心を清浄に整えてくれるはずだ。



【七夕飾りの持ち帰り】